

「豊岡ライフスタイルデザインプロジェクト」



雪室完成イベントに集まった中筋小学校の児童たち（兵庫県豊岡市）

雪室のある暮らし 実証実験スタート

2月27日、兵庫県豊岡市の中筋地区で、市内に積もった雪を利用した保冷庫「雪室」の実証実験が始まった。完成イベントには中筋小学校の児童と保護者、地域住民、関係者ら60人が参加し、ジャガイモとタマネギ合わせて400kgを運び入れた。今後、雪室の性能・効果確認を進め、夏場に保存食材の試食会を実施する。

雪室の実証実験は、豊岡市と東北大学が進める「豊岡ライフスタイルデザインプロジェクト」で描き出された「地元の食材が集う暮らし」の実装を検討する過程で生まれたアイデアの実践として取り組まれている。

学校給食に地元食材を積極活用するには、安定した通年供給が求められる。電気保冷庫を使用した場合、多額の電気代がかかるため、冬季に地元で降った雪を用いた雪室を使用する。まず、給食への供給に向けてジャガイモとタマネギの保存試験を行う。

コンテナに断熱材を貼った雪室は、通常の保冷庫よりも建設

降雪利用、保冷性能を試験

完成イベントに 夏に保存食材試食
児童ら60人参加

豊岡市は古川柳蔵東北大学大学院准教授が代表者を務めるプロジェクト「未来の暮らしを育む心象の創造」のロージ研究会も産業界モデル地区として協力している。このプロジェクトは科学技術振興ポートしている。



雪室内部
①仕切りの向こうには地元の雪が詰め込まれている
②用意したジャガイモとタマネギを夏場に試食する

グローバル人材育成、現状・課題に焦点 30日に開催

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は3月30日14時、東京コンファレンスセンター・品川（東京都港区）で人材育成研究会／モノづくり産業教育イニシアチブ「モノづくり英語教育」を開く。教育機関からグローバル人材育成の現状と課題に焦点を当てる。参加は無料、定員100人。詳細申し込みはホームページ（www.cho-monodzukuri.jp）へ。

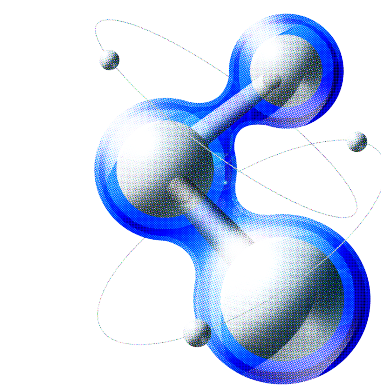
モノづくりのグローバル化が進む中、世界で通用するモノづくり人材の育成は一層重要度を増している。世界に広がる生産・営業拠点に赴任する場合、まず言語や文化の違いを認識する必要がある。

国内においても世界中から寄せられる受注注について、のコミュニケーションだけでなく、海外人材がモノづくりの現場に加わるケースも増えている。現場でのコミュニケーションだけでなく、的確な技術用語を用いるなど英語教育の重要性は高まっている。

そこで今回の研究会は「モノづくり英語教育」をテーマに、教育機関からグローバル人材育成の現状と課題に焦点を当てる。

愛知県立小牧工業高校の安部則男校長は工業高校の視点から英語教育に取り組む、「工業英語 BASTIC BOOK」などの編集にも関わった。長岡技術科学大学の明田川正人教授は、海外の企業に多数の学生を送り込んでいる同大学のインタースhipの現状などを紹介する。また実際に海外でインタースhipに参加した修学生生の体験談も披露する。

「プログラム」
▽「モノづくり人材育成に求められるもの（仮）」山藤康夫氏（日鉄住金総研客員研究主幹、モノづくり日本会議人材育成研究会コーディネーター）
▽「工業技術英語教育の現状と展望」安部則男氏（愛知県立小牧工業高校校長）
▽「長岡技術科学大学の海外実務訓練 語学教育も含めて」明田川正人氏（長岡技術科学大学工学部教授）
▽「タイの実務訓練でのサバイバル体験記」中川盛太氏（長岡技術科学大学修士1年）
▽講演者によるパネルディスカッション



モノづくり日本会議

モノづくりへの挑戦

04年に「モノづくり部品大賞」としてスタートし、08年から現名称となった。過去12回の実施で受賞部品は累計432件に上る。

問い合わせは日刊工業新聞社モノづくり日本会議事務局（03・5644・7608）。詳細は専用ホームページ（www.cho-monodzukuri.jp/award/）へ。

2015年 ④モノづくり部品大賞



モノづくり日本会議共同議長賞 「高効率・大減速比を実現する小型アクチュエータ」（アイシン精機）



モノづくり生命文明機構理事長賞 「微細操作用「マニピュレーションシステム」（日本精工）

モノづくり生命文明機構理事長賞 「微細操作用「マニピュレーションシステム」（日本精工）

日本の産業界は機械や支えているのが、製品の源泉である「縁の下」の電機、自動車から生活関連機器・経済性などを実現「力持ち」である部品・部材に至るまで、数多くの部品や部材。日本の材に焦点を当てたのが、モノづくりの競争力向上「モノづくり部品大賞」だ。

優れた部品・部材募集

【対象】
候補の対象は①機械②電気・電子③自動車④環境関連⑤健康・バイオ・医療機器⑥生活関連の6分野に関する完成品を構成する部品・部材。応募案件がどの分野に該当するかは審査会で決定し、また複数分野にまたがる案件はそれぞれの分野の観点で審査するため、応募者は分野を指定する必要はない。

6分野対象

独創性・性能など評価

【対象となる要件】
開発・製品化された時期は、原則およそ1年以上（15年3月以降のもの）。応募部品を組み込んだ完成品の開発・製品化がおおよそ1年以内のものに該当することとする。原則として販売・納入実績があること。

【審査】
審査は①技術の独創性②性能③経済性④実績⑤環境分野としての審査の場合、①、②は環境面明機構理事長賞、各分野の「部品賞」など30件程度を表彰する。発表は16年10月の日刊工業新聞紙上とモノづくり日本会議ホームページで発表。同11月中旬に贈賞式を開催する。

【表彰・発表】
最高賞である「部品大賞」をはじめ、「モノづくり日本会議共同議長賞」のモノづくり推進シンポジウム、特別講演会、防災イノベーション、地区別研究会、中部地区研究会

モノづくり日本会議

モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超」モノづくりの推進をテーマに、事業を進めております。これまでの取り組みを発展・拡充させるとともに、IoTやAIを含めたロボット産業や「防災イノベーション」など、横断的テーマについては、より実践的な成果を目指します。

先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

「グローバル競争力強化関連事業」

■モノづくり力徹底強化検討会

■人材育成関連事業

■長寿企業イノベーション勉強会

■価値創造型サプライチェーン検討会

「新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業」

■ネイチャー・テクノロジー研究会

■新産業創出検討会

◇新産業技術促進検討会

◇農商工連携勉強会

■ロボット研究会

◇ロボットビジネス 2020

その他の事業コンテンツ

■交流・マッチング事業

■顕彰事業

■モノづくり推進シンポジウム

■特別講演会

◇防災イノベーション

■地区別研究会

◇中部地区研究会

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ（www.cho-monodzukuri.jp）をご覧ください。

●お問い合わせ先 ● モノづくり日本会議事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（日刊工業新聞社内） Tel: 03-5644-7608 Fax: 03-5644-7209